

# 第5章 シンボルプロジェクト

## 1 シンボルプロジェクトについて

本プランでは、本市の田園や里潟、里山などを、ひとつにつながった生物の生息・生育空間ととらえ、「つなげよう新潟の命 未来につなごう新潟の命」を合言葉に、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組んでいきます。そして短期目標で掲げた「生物多様性の重要性を認識し、自然環境の保全に向けた取り組みを展開」するため、本プラン全体の牽引役となるシンボルプロジェクトを実施します。

シンボルプロジェクトの考え方は次のとおりとします。

### ①シンボルプロジェクトの視点

- 生物多様性の基盤となる在来の動植物の生息・生育環境の保全や再生を図るための取り組みであること。
- 生物多様性とそこから得られる恵みの大切さについて、多くの市民の理解を深める取り組みであること。
- 取り組みを実施する対象地域は、希少種が多く生息・生育し、保全の緊急性が高く、かつ人との関わりも深い地域であること。

### ②シンボルプロジェクトの対象地域とその特徴

#### 里潟

- 里潟は本市の自然環境の大きな特徴であり、ハクチョウ類やオオヒシクイなどのねぐらとなるなど、水鳥や水生植物の宝庫となっている。
- 里潟には他にも多くの希少種が生息・生育しており、環境保全の必要性が高い。

#### 里山

- 本市の里山は、市街地に隣接する自然として市民に親しまれている。
- 里山には多くの動植物が生息・生育しており、オオタカやギフチョウなど希少種も多く、環境保全の必要性が高い。

#### 田園

- 本市は市域の4割を水田が占めており、田園が市街地を包み込みむように広がり、里潟、里山などをつないでいる。
- 田園は食料生産の場であり、同時にハクチョウ類やオオヒシクイなどの餌場となっている。本市は、これら冬鳥の日本最大の飛来地となっており、田園は本市の生物多様性の重要な基盤のひとつであり、生物多様性保全の必要性が高い。

③シンボルプロジェクトの考え方

シンボルプロジェクトの取り組み方針

本市の田園や里潟、里山などを「ひとつにつながった生物の生息・生育空間」ととらえ、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組む

本市の特徴的な自然環境と市民の取り組み

多様な生物が生息・生育する田園

- ハクチョウの餌場
- 農作物(食と花)の生産の場
- 「食と花」は、私たちに一番身近で不可欠な生物多様性の恩恵そのもの



ハクチョウ飛来数は全国1位

- 里潟はハクチョウのねぐら
- 田園はハクチョウの餌場
- 里潟や里山、田園を背景にハクチョウが飛び交う風景は、本市の宝



市民による自然環境保全の取り組み

- 市民ボランティアによる自然解説や希少種の保護活動、学校や地域と連携した取り組みなど、生物多様性保全の意欲的な取り組みが始まっている



【里潟、里山、田園の保全】

里潟、里山、田園などをひとつにつながった生物の生息・生育空間として守り、将来につなげていくための取り組みを進める

⇒プロジェクト1~4



【食と花を通じた生物多様性の恩恵や大切さの気づき】

私たちに一番身近な「食と花」を通じて、市民が生物多様性の恩恵や大切さに気づききっかけをつくる

⇒プロジェクト3

【ハクチョウが飛び交う環境の保全】

ハクチョウが飛び交う環境を将来に受け継いでいくために、里潟や田園で、生物多様性の保全に向けた取り組みを進める

⇒プロジェクト1、3

【担い手の育成と人のネットワーク構築】

自然と人、人と人の新たな関わりの形成に向けて、生物多様性保全の担い手となる人材の育成と、人のネットワークの構築を進める

⇒プロジェクト4

以上の考えに基づき、「にいがた命のつながりプロジェクト」として、次の4つのプロジェクトを展開します。シンボルプロジェクトの実施期間はプラン策定後概ね3年間とします。

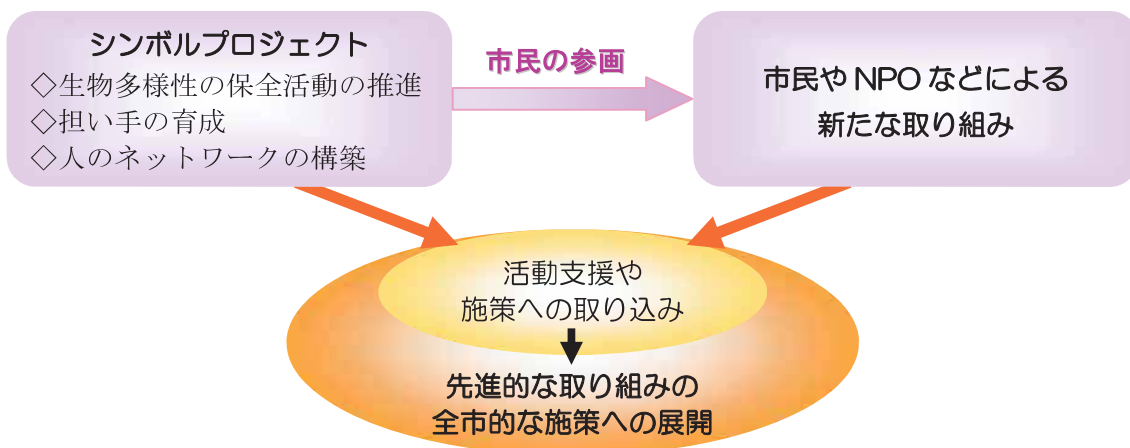
- 【にいがた命のつながりプロジェクト】**
- 1 命にぎわう里潟ネットワークプロジェクト
  - 2 触れよう・学ぼう・受け継ごう! 輝く里山プロジェクト
  - 3 おいしい・たのしい生物多様性交流プロジェクト
  - 4 命を愛する人づくりプロジェクト



【にいがた命のつながりプロジェクトの構成】

## 2 シンボルプロジェクトや新たな取り組みの展開に向けて

シンボルプロジェクトでは、生物多様性保全の担い手の育成などを進めることで、市民やNPOなどによる生物多様性保全の取り組みの活性化を図ります。そして、市民やNPOが新たな発想で展開する先進的な活動については、活動の支援や施策への取り込みにより、シンボルプロジェクトとともに全市的な施策への展開を図ります。



【シンボルプロジェクトや新たな取り組みの展開のイメージ】

### 3 にいがた命のつながりプロジェクト

#### (1) 命にぎわう里潟ネットワークプロジェクト



コハクチョウ



オオヒシクイ

#### ア 実施方針

##### 【プロジェクトの目的】

- ・本市のシンボルであり、生物多様性の恵みと大切さを感じさせてくれる里潟の生物多様性保全を推進します。

##### 【現状】

- ・オニバスやミズアオイなど、希少な水生植物が生育し、コハクチョウ、オオヒシクイの日本一の越冬地として、多様な生物相を支える湿地環境が残されています。
- ・佐潟、福島潟では拠点施設が整備され、幅広い市民や子どもたちの交流と学習、情報発信の場として機能しています。また、鳥屋野潟でも野鳥観察施設が整備され、さまざまな活動が芽吹き始めています。
- ・地元住民や有識者、教育機関、NPOなどが連携し、里潟を意識した保全やワイズユースの取り組みが行われています。
- ・水鳥にとっては、3つの潟を含む越後平野全体がひとつの生息地として、重要な役割を果たしています。(p. 2-20 参照)
- ・3つの潟を含む越後平野でのハクチョウ類、ガン類の調査がNPO、行政などの連携により行なわれ、国内的に注目されています。
- ・野鳥・植物などの生物や文化活動を通して、3つの潟が連携した取り組みが少しずつ始まっています。
- ・佐潟では、ラムサール条約を基点とした保全計画が策定され、各主体間での問題を共有し、課題解決に取り組んでいます。
- ・福島潟では、新潟県による浚渫が行われ、潟の陸地化や水面の減少を抑える取り組みが行われています。

### 【課題】

- ・各湖沼とも、陸地化・植生の単純化が進み、希少種の生育環境が減少しています。
- ・湿地やその周辺は、外来種のみシシピアカミミガメやセイタカアワダチソウなど、かつては生育・生息していなかった動植物が生息域を拡張、在来生物にも悪影響を及ぼしています。
- ・福島潟では、豪雨などによる急激な水位変動により、オニバスをはじめとした水生植物の生育へ影響が懸念されます。
- ・佐潟では、潟普請やヨシ刈り、水路の復元が試みられていますが、限定的な試行に留まっています。
- ・各湖沼とも、地元住民の昔ながらの関わりが薄らぎ、また、高齢化も進んでいます。知恵と技の伝承、それを引き継ぐ新しい関わりの創出が必要です。
- ・地域主体の保全の重要性から、地域の活性化と交流人口の増大のために、ツーリズムや安らぎの場など、里潟の持つ価値や魅力を活かす持続可能な取り組みが必要です。
- ・各湖沼の施設や市民団体間で、より連携した取り組みが求められています。
- ・「里潟」の目指すべき姿を、各主体で検討・協議し描き出すことが必要です。

### 【実施方針】

- ・あるべき里潟の環境を考えながら、在来種の生息・生育環境を守る活動を推進します。
- ・3潟の個性を活かしながら各主体間での連携を進め、「つながり」を培える環境を作り出します。

## イ 取組内容

### a 新潟市里潟サミットの開催【佐潟・鳥屋野潟・福島潟】

3潟の個性を活かしながら各主体間での連携を進め、「つながり」を培う場として、新潟市里潟サミットを開催します。

新潟市里潟サミットでは、3つの里潟の取り組み活動や課題などを、地元の小中学校や環境NPOなどが発表し意見交換するとともに、「里潟」の目指すべき姿を各主体と検討し、本市の里潟のすばらしさを市内外へ発信します。

**b 希少種の保全活動**

市民・地域コミュニティをはじめとして、多くの市民団体・NPOが希少種の保全・再生活動を行っています。これらの取り組みについて、新潟市地域活動補助金などによる活動費用の支援をはじめ、新たな担い手の育成に取り組みます。

また、佐潟では、各主体と連携して新たにビオトープを整備し、有識者の協力も得ながら希少種の移植・展示などを図ります。ビオトープでの希少種の観察やモニタリングなどの生息・生育状況調査は、地域の児童や市民などと協働で実施するとともに、維持管理は地域コミュニティを中心に行い地域に愛されるビオトープづくりを進めます。



福島潟のオニバス  
資料:ビュー福島潟



佐潟のミズアオイ群生地

**c セイタカアワダチソウの駆除活動**

「いがた生きものサポーター」やNPOなど、各主体と連携してセイタカアワダチソウの抜き取り作業を佐潟と福島潟で実施します。



佐潟



水の公園 福島潟

【取り組み指標】

指標	現状・目標
佐潟水鳥・湿地センター 年間来館者数	現状： 70,044 人(H 2 2 年度) 目標： 90,000 人(H 2 6 年度)
水の公園福島潟 年間来園者数	現状： 165,000 人(H 2 2 年度) 目標： 187,500 人(H 2 6 年度)
ビュー福島潟総合学習受け入れ件数	現状： 71 校(H 2 2 年度) 目標： 150 校(H 2 6 年度)
オニバス現地案内参加者数 (福島潟)	現状： 1,918 人(H 2 2 年度) 目標： 2,500 人(H 2 6 年度)
福島潟自然文化基金額	現状： 2,021 千円(H 2 2 年度) 目標： 4,000 千円(H 2 6 年度)
ビオトープの整備 (佐潟)	現状： — (H 2 3 年度) 目標： 整備・コミュニティ協議会による維持管理(H 2 4 年度)
佐潟モニタリング調査の実施	現状： 佐潟周辺植生モニタリング調査(H 2 3 年度) 目標： 両生類・爬虫類・哺乳類調査の実施(H 2 5 年度) 佐潟周辺植生モニタリング調査の実施(H 2 9 年度)
福島潟モニタリング調査の実施	現状： 植生調査 (新潟県実施) (H 2 2 年度) 目標： 植生調査の実施(H 2 7 年度)
鳥屋野潟モニタリング調査・指標生物生育調査の実施	現状： 指標生物生育状況調査 (H 2 3 年度) 目標： 指標生物生育状況調査の実施 (H 2 4・2 5 年度) 鳥屋野潟植生調査の実施 (H 2 6 年度)
これまでのモニタリング調査や文献などで確認された種のデータ公開	現状： — (H 2 3 年度) 目標： 集計データをホームページで公開(H 2 4 年度)



鳥屋野潟



鳥屋野潟に飛来する水鳥

(2) 触れよう・学ぼう・受け継ごう！輝く里山プロジェクト



にいつ丘陵トレッキング



森づくり体験教室

ア 実施方針

【プロジェクトの目的】

- ・絶滅危惧種やさまざまな動植物が生息・生育する里山の生物多様性保全を推進します。

【現状と課題】

にいつ丘陵

- ・間伐材の木質バイオマス利用や市民を対象とした自然体験など、さまざまな利用が進められており、多くの市民や団体が取り組みに参加しています。
- ・生息・生育する動植物について、専門家によって継続的に調査が行われています。

角田山・多宝山

- ・山道の維持管理や雪割草やホタルの生息環境の維持管理、観光利用などの取り組みが進められていますが、その担い手は地元住民やNPOであり、一般市民の参加はまだ少ない状態です。
- ・動植物の生息・生育状況について、継続的な調査は実施されておらず、生物多様性の現状について情報が不足しています。

【実施方針】

- ・にいつ丘陵において、未利用間伐材の木質バイオマス利用や市民を対象とした自然体験など、さまざまな利用を進めます。
- ・角田山において、多様な主体の参画による里山の維持管理・利活用と、生きもの調査を推進します。

イ 取組内容

a 里山情報発信事業

にいつ丘陵の魅力やイベント情報など里山に関するさまざまな情報を「あきは発 里山冒険王」のホームページで情報発信していきます。



## b 市有林保全整備事業【にいつ丘陵】

にいつ丘陵の市有林では、各種団体等と、里山の利用の活性化と森林整備を進め、生物多様性の保全を図ります。

そのために、間伐材を利用した木質ペレット燃料を園芸ハウスや学校、家庭などでの暖房利用の普及・活性化を図り、里山の保全整備をエネルギーの地域循環につなげていきます。あわせて、二酸化炭素の排出削減を図ります。



【ペレットの生産から消費の流れ】

資料：「新潟市秋葉区で、木質ペレットによる美しい里づくりが始まります。」新潟バイオリサーチパーク株式会社、木質ペレット推進協議会

## c 学ぼう・育てよう「環境林・保健休養林」事業【にいつ丘陵】

里山での自然体験活動を通して、森林のもつ環境保全や保健休養機能の役割を市民に理解してもらい、市民と協働で里山の保全と利活用を進めます。

### 【取り組み例】

- ・にいつ丘陵トレッキング

里山ガイドとともに菩提寺山に登るツアー。山の自然に触れ、学ぶことができます。

- ・アキハアウトドアスポーツフェスタ

ツリークライミング、カヌー体験教室、丸太切り体験など、にいつ丘陵の里山環境を活用した運動体験ができる体験型イベントです。

- ・森づくり体験教室

里山の保全活動などに取り組んでいる団体と連携して、植樹などの森林整備などを体験するイベントです。

など



アキハアウトドアスポーツフェスタ  
(カヌー体験教室)



初心者トレイルランニング教室

d 里山生きもの調査の実施【角田山】

専門家とともに「にいがた生きものサポーター」による生きもの調査を実施します。調査を通して、自然に触れ、学び、遊びながら、自然に対する保全の意識を醸成します。

【取り組み指標】

指標	現状・目標
生きもの調査参加人数（角田山）	現状： — （H23年度）
	目標： 20人／年（H26年度）



ノコギリクワガタ



カブトムシ



ベニシジミ

### (3) おいしい・たのしい生物多様性交流プロジェクト



ヒシ採り

資料:佐潟水鳥・湿地センター



みのりの収穫祭

#### ア 実施方針

##### 【プロジェクトの目的】

- ・市民に身近な食や花を通じて、農業から生物多様性への理解を進めます。

##### 【現状と課題】

- ・本市の市町村別水田面積は、全国1位であり広大な農地を有しています。
- ・市町村別の農業産出額は、米が1位、花が5位、野菜が14位、果実が38位と食料の大生産地であるとともに、人口81万人の大消費地という側面も持っています。
- ・平成23年度から食育・花育・農村と都市の交流における拠点施設として「新潟市食育・花育センター」を開設し、市民協働による活動・交流、体験、情報の受発信を進めています。
- ・環境保全型農業の推進によって拡大している減農薬減化学肥料栽培面積に比べ、冬みず田んぼなどの生物多様性に配慮した取り組みはまだ小さい状況です。
- ・食育や花育を通じて、自然の大切さに気づき、動植物を愛する気持ちを育むとともに、田園や里潟、里山を訪れるきっかけを作り、保全活動に参加する人を増やす必要があります。また、人と人をつなぐ仕組みづくりやコーディネート機能を強化することも必要です。

##### 【実施方針】

- ・冬みず田んぼや擬似湿地、農業用排水路への魚道設置など、農業における生物多様性に配慮した取り組みを進めます。
- ・食育や花育を通して、市民の生物多様性への理解を深めます。
- ・食育、花育、農村・都市交流が一体となった取り組みを推進します。



新潟市食育・花育センター

**イ 取組内容**

**a 水田生態系の質的向上につながる冬期湛水などの実施**

ラムサール条約湿地の佐潟をはじめ、鳥屋野潟、福島潟などの里潟や、信濃川、阿賀野川などの水環境に恵まれた本市は、ハクチョウなど多種多様な水鳥が数多く訪れる地域です。冬期間の水田に湛水し擬似湿地を形成することで、水鳥など多様な動植物の生息・生育環境を創出するとともに、冬期湛水による雑草の抑制や施肥効果などを営農面に活用し、環境保全型農業を推進します。

また、水生生物の避難場所となる田内承水路や、農業用排水路や水田への魚道の設置と、モニタリング調査による設置効果の評価に農業者や地域住民が協働で取り組むことで、水田生態系の生物多様性の保全・向上と交流の促進を図ります。

**b 食育、花育、農業体験が一体となった取り組みの推進**

新潟市食育・花育センターを拠点として、食育、花育、農業体験が一体的に体験できる小学校・保育園・幼稚園向けの団体プログラムを構築し、子どもたちへ多様な体験の機会を提供します。

また、現在整備を進めている(仮称)アグリパーク・農業研究センターでは、農業の本格的な教育ファームとして、子どもから大人まで幅広い層が農業を学べる教育の場づくりを目指しており、今後さらに農業体験教育を通じて自然を学べる場の提供が期待されます。

**c 食育、花育マスター制度の推進**

本市では、市民の花育活動の促進と花育に対する意識向上を図るため、花や緑に関する専門家を「新潟市花育マスター」として登録し、学校、職場、市民団体などが行う花壇づくりをはじめとした花育活動へ、講師やインストラクターとして派遣しています。

同様に、食育に関係する知識・技術を持ち、指導者となりうる人材を食育マスターとして登録し、データベースの構築を行い、全市的な活用を進めます。

**【取り組み指標】**

指標	現状・目標
冬期湛水（冬みず田んぼ）管理実施面積	現状： 315ha(H 2 1年度)
	目標：2,100ha(H 2 6年度)
食育・花育センターの入場者数	現状：75,000人(H 2 3年度※)
	目標：100,000人/年 (H 2 6年度)
食育に関心がある市民の割合 (20歳以上)	現状：77.3%(H 2 2年度)
	目標：90.0%(H 2 8年度)

※平成23年10月15日から平成24年1月15日の入場者数

#### (4) 命を愛する人づくりプロジェクト



自然観察会に参加する市民

#### ア 実施方針

##### 【プロジェクトの目的】

- ・生物多様性保全の担い手となる人材の育成と人のネットワークの構築を進めます。

##### 【現状と課題】

- ・里潟や里山、田園などで始まっている生物多様性の保全に向けた取り組みを、今後さらに拡大するためには、担い手となる人材の確保・育成が必要です。
- ・潜在的な自然環境保全活動への参加希望者は多く見られ、活動の情報提供や気軽に申し込める窓口などが求められています。

##### 【実施方針】

- ・本市の自然環境や保全活動に関する情報を発信し、生物多様性の保全に積極的に参加する人材を掘り起こします。
- ・生物多様性保全の取り組みを実際に体験できる機会を設け、新たな担い手の育成による保全活動の活性化を図ります。

#### イ 取組内容

##### a 「にいがた生きものファンクラブ」活動による市民の意識啓発

「にいがた生きものファンクラブ」として、本市の自然環境や保全活動に興味を持つ個人や団体を募集します。ファンクラブの会員には、自然観察会や環境保全活動、出前教室などのイベントや、環境NPOの取り組みの様子をメールマガジンなどを用いて情報を発信します。

b 「にいがた生きものサポーター」活動の推進による新たな担い手の育成

市民の自然環境の保全の意識向上及び人材育成を図るため、「にいがた生きものサポーター」制度を設立し、サポーターとなる市民を募集します。サポーターには、里潟や里山、保安林、河川、田園の5つのフィールドで、自然環境保全活動の「入門編」の体験の機会を提供し、新たな担い手として育成を図ります。

【取り組み指標】

指標	現状・目標
「にいがた生きものファンクラブ」 登録数	現状： — (H23年度)
	目標： 1,000人(H26年度)
「にいがた生きものサポーター」 現地体験会活動者数	現状： — (H23年度)
	目標：延べ50人以上 (H24年度) 延べ100人以上 (H26年度)
市民探鳥会の参加人数 (青山海岸、西海岸、佐潟、鳥屋野潟に おける探鳥会)	現状：221人/3回(H22年度)
	目標：300人/3回(H26年度)



ミズアオイ観察会



冬鳥の観察